

## 北海道のカワラナデシコ (ナデシコ科)

千歳市 五十嵐 博

### はじめに

札幌市立大学の矢部和夫氏から道内のカワラナデシコに関して問い合わせが2021年7月にあった。内容は、梅沢俊著、新北海道の花第5刷にエゾカワラナデシコだけが載っているが、Ylistでも標準として記載されているカワラナデシコが、なぜ新北海道の花からなくなったのかというもので、浜厚真のカワラナデシコ画像が添えられていた。過去の図鑑類を再確認したところ、両種の認識には問題がありそうなので早速、標本採集を開始した。2022年度も各地で採集したのでその結果を報告する。

### 文献調査

カワラナデシコ *Dianthus superbis* var.

*longicalycinus* は「日当たりのよい草地や河原に生える高さ30-80cmの多年草。茎や葉は粉白色を帯びる。葉は対生し、長さ3-9cmの線形～披針形で、基部は茎を抱く。花は淡紅紫色で直径3-3.5cm。花弁が細かく糸状に裂けているのが特徴。舷部の基部にはひげ状の毛がある。萼筒は長さ3-4cmで、その下に3-4対の苞がある(図1)。雄しべは10個、花柱は2個ある。花期は7～10月、分布は本、四、九」(林ら2013)で道内分布記載はない。門田ら(2013)もほぼ同様であるが花期は6～10月と一部が違っていた。

鮫島ら(1993)のエゾカワラナデシコの項にはカワラナデシコの記載があり「株立ちで小形、花の苞は3-4対あり先は短



図1 カワラナデシコ 苞は3-4対 苞の先が凸形



図2 エゾカワラナデシコ 苞は2対 苞が尾状に伸びる (酒井信氏提供)